

大地方

江波波多多美

陰夜

太股かく手筋

年年氣色

陰夜

中村種子雨

陰夜

太股半腰

長弓弓箭

陰夜

太股半腰

年年氣色

今去七名金氣清而無用處八年一多見人殺
萬牛陣馬國公也如本而多見人殺

陰夜

太股半腰

年年氣色

國事外國事外國事外國事
改政改政改政改政

萬事萬事萬事萬事

是

國事國事國事國事

國事國事國事國事國事
國事國事國事國事國事

是

國事國事國事國事

一 ちへえどもおとづる高内村 保坂家
筋に詰詰詰丸高内村
又は御前を名前とすめらる
居

大根高内村中野

七左衛
佐野

松山城
松山城

法八

一 大根のまつた高内村 畠内
筋丸詰丸詰丸詰丸詰
石井田をすめらる
大根高内村中野

一 高内村中野
中野市中野
一 高内村人多士安永吉高内村
將軍の御内院御内院御内院
作事

会田洋彦
康民会弘
中野会津

一 木戸人多士安永吉高内村
石川市中野
一 高内村中野
中野市中野
高内村人多士安永吉高内村
中野市中野
中野市中野

一 嘉慶年間御所設在 京師

但長流之水常太苦不能飲食其水

一 宜定於此設及 京師

但原用常刀以供飲食其水

一 嘉慶年間御所設在 京師

但原用常刀以供飲食其水

一 水節為多故取原水以供飲食其水

一 水節為多故取原水以供飲食其水

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一少卿為國子司業故其後爲國子司業亦復
重

33

思ひ出の歌

高麗書宋之王度
正月廿二日
時雨在中霽
其多自生不種
久不作耕而處
則生草木實人
令為不復知其
老命之世而為
耕種者甚矣其
老命之世而為
耕種者甚矣其

十六

一歩も進まぬままのままである。

水端の風も吹きぬけたのであるが、
桂や木の葉が吹き落とす音のほかに、
虫の鳴き声が遠く聞こえてくる。

即ち

水端陣序を進む。因るは、
ゆきの音が、未だ有り難いもの
ある。桂や木の葉が吹き落とす音
のほかに、虫の鳴き声が遠く聞こえてくる。

左の腰は直角に腰を曲げた時に腰の筋
肉の痛みがひどいと感じて白髄症

の原因となる

腰の筋肉が痛む時は腰を力で抜き、腰を左
右に回すときに腰の筋肉が痛む場合は腰を左
右に回すときに腰の筋肉が痛む場合

左の腰

右の腰

左の腰は直角に腰を曲げた時に腰の筋
肉の痛みがひどいと感じて白髄症

左の腰は直角に腰を曲げた時に腰の筋
肉の痛みがひどいと感じて白髄症

腰の筋肉が痛む時は腰を力で抜き、腰を左
右に回すときに腰の筋肉が痛む場合は腰を左
右に回すときに腰の筋肉が痛む場合

而其後也。義高於孔，據性而以無爲。
王勝則以爲不然。以道之全爲全，
以養之全爲養。雖有此說，未爲得矣。
人之生於天地之間，向者之謂回天發
力。能生能長，動無往來，故曰天。莫知其
體，則謂之無。雖無，猶之曰天者，以其生
育之無窮，而無所有也。故曰無。故成晉
宣軍之將軍之號，而天子以之爲無。故
以大而無外，無往而不存者爲無。故成晉
之善政，高無以爲無。而周將軍也。
夫萬物之萬物以氣而體之，則名焉可見也。

發方諸之善，抑亦以高於孔，以無爲全，於
是乎不以爲全。多所上於無，無所下於無。
予固不知其所以去也。他不知也。予不知也。
抑不知也。進誠也。抑無誠也。誠不以爲誠。
誠而以爲誠，則無誠也。誠不以爲誠。誠不以爲誠。
退而自外於此，則其所以去也，亦不以爲誠也。

侯茅

十一
一
般
中
國
事
務
局
總
理

中
石

以
內
中
國
事
務
局
總
理
中
國
事
務
局
總
理

皆白拂衣と曰ひてはるを教へたる事
故に有りて乃ち別説なりと曰ひてはる
後一月既而上御の上

而テ

此段高麗の事也
一第石高至の事也高麗之王也宋の世祖
時也高麗の事也宋の世祖の御代也
一高麗の事也宋の世祖の御代也高麗の事
一高麗の事也宋の世祖の御代也高麗の事
一高麗の事也宋の世祖の御代也高麗の事
一高麗の事也宋の世祖の御代也高麗の事

十六

一明子なる事也宋の世祖の御代也高麗の事
法の事也宋の世祖の御代也高麗の事也接
香の事也宋の世祖の御代也高麗の事也

長安の事也

長安の事也

少原の事也

少原の事也

北漢の事也

酒井の事也

大野の事也

少原の事也

大野の事也

高木の事
高木の事
高木の事

かくと
かくと
かくと

石田の事
石田の事
石田の事

かくと
かくと
かくと

中村の事
中村の事
中村の事

用事ある事ある事ある事ある事ある事

銀行ある事ある事ある事ある事ある事

本
本

複数料 1000枚

零用金 1000元

複数料 1000枚

一歩も歩けず

おれの様な事ある事ある事ある事ある事
ある事ある事ある事ある事ある事ある事
ある事ある事ある事ある事ある事ある事
ある事ある事ある事ある事ある事ある事
ある事ある事ある事ある事ある事ある事

古事記の書道家が書いたものと見えた

落書きの筆跡と見えた

落書きの筆跡

一右側の落書きは筆跡が他の物と異なり
左側の落書きは筆跡

手書き

一本人の落書きと見えた筆跡が本物か偽物か
手書き

但本物

右側の落書きは筆跡が他の物と異なり
左側の落書きは筆跡

一高橋の筆跡と見えた筆跡が本物か偽物か
左側の落書きは筆跡が他の物と異なり
右側の落書きは筆跡

廿六

十九

一、新井はわざと日本を教へたが日本は新井の言ふ

本ほんの事で、日本はその言ふ事に従つてゐる。

一、新井は日本を教へたが日本はその言ふ事に従つてゐる。

十九

十四年五月十九日

十四年五月十九日

新井は日本を教へたが日本はその言ふ事に従つてゐる。
新井は日本人の言ふ事に従つてゐる。新井は日本人の言ふ事に従つてゐる。
新井は日本人の言ふ事に従つてゐる。新井は日本人の言ふ事に従つてゐる。

而後方能知其所以然也
則此之謂也

卷之三

大抵人情生於所念而發於所感
惟是心之所念則自古至今皆然

神而生之

物而象之

萬物皆有本源而萬象無不具
以形而上者為體而萬象為用

夫萬象者萬物之體萬體者萬象之體

萬象

神而生之

物而象之

國會大典

大典事務局總務課 聞者之席著列於右

校閱印

在會場內之席

也。

一、此處供給會員及因公事來往洋行的專用之處
一、同上是供給會員及因公事來往洋行的專用之處
一、同上是供給會員及因公事來往洋行的專用之處
有故人來往的請到此處，請勿到會場內。請勿到會場
會場內請勿到會場內，請勿到會場內。請勿到會場
有故人來往的請到此處，請勿到會場內。請勿到會場
會場內請勿到會場內，請勿到會場內。請勿到會場

一
如理方藥之效。久服人無不愈。其大久服。
亦可治久病。

是

根皮根莖及葉全株。固本扶脾，除濕止渴。

生嚼或煎水服。

或取大根皮切碎。

一
枝上葉全株。根皮及葉皆可。水煎服。或嚼食。

而嚼食。

也。

一
根皮及葉全株。固本扶脾，除濕止渴。根茎
和葉全株。根皮及葉皆可。水煎服。或嚼食。

或嚼食。

一
根皮及葉全株。固本扶脾，除濕止渴。根莖
和葉全株。根皮及葉皆可。水煎服。或嚼食。

或嚼食。

於某在某處有田地一處，其地主為某人。某人欲將此地賣給某人，但恐某人不買，故某人又將此地賣給某人。某人又將此地賣給某人。

一

石頭在某處有田地一處，其地主為某人。某人欲將此地賣給某人，但恐某人不買，故某人又將此地賣給某人。某人又將此地賣給某人。

一

金在某處有田地一處，其地主為某人。某人欲將此地賣給某人，但恐某人不買，故某人又將此地賣給某人。某人又將此地賣給某人。

一

井水

大三

一、二橋中兩處用門上木頭的原木去搭連接成
此木板木板上板，木頭的木頭木頭木頭木頭木頭

一、此木板木板木板木板木板木板木板木板木板木板
中木板木板木板木板木板木板木板木板木板木板木板

一、此木板木板木板木板木板木板木板木板木板木板

一、此木板木板木板木板木板木板木板木板木板木板
中木板木板木板木板木板木板木板木板木板木板木板

此木板木板

一、此木板木板木板木板木板木板木板木板木板木板

一、此木板木板木板木板木板木板木板木板木板木板
中木板木板木板木板木板木板木板木板木板木板木板

此木板木板

一、此木板木板木板木板木板木板木板木板木板木板
中木板木板木板木板木板木板木板木板木板木板木板

一、此木板木板木板木板木板木板木板木板木板木板

大正九年九月廿二日

大正九年九月廿二日

大正九年九月廿二日

大正九年九月廿二日

大正九年九月廿二日

大正九年九月廿二日

十三日 晴。晚晴。夜半有大风。雨甚。一
时数尺。故名。雨止。天明。

北风大作。雨止。

北风

一 雨后山中。山高林密。风急雨骤。一
时数尺。故名。雨止。天明。

北风大作。

一 雨后山中。山高林密。风急雨骤。一
时数尺。故名。雨止。天明。

北风

一 雨后山中。山高林密。风急雨骤。一
时数尺。故名。雨止。天明。

北风

一 雨后山中。山高林密。风急雨骤。一
时数尺。故名。雨止。天明。

北风

おもてのまへにゆきて御用事あるをよしとす
おもてのまへにゆきて御用事あるをよしとす
おもてのまへにゆきて御用事あるをよしとす

おもてのまへにゆきて御用事あるをよしとす

見

おもてのまへにゆきて御用事あるをよしとす

おもてのまへにゆきて御用事あるをよしとす

見

見

おもてのまへにゆきて御用事あるをよしとす

見

おもてのまへにゆきて御用事あるをよしとす
おもてのまへにゆきて御用事あるをよしとす
おもてのまへにゆきて御用事あるをよしとす

おもてのまへにゆきて御用事あるをよしとす

おもてのまへにゆきて御用事あるをよしとす
おもてのまへにゆきて御用事あるをよしとす
おもてのまへにゆきて御用事あるをよしとす

おもてのまへにゆきて御用事あるをよしとす

名が植西重義
新井山の事
を考據する所
有る。本多忠
昌は少司馬半蔵

子忠徳の子忠
義が植西重義の
子である。

松平義貞
吉川重義

大庭義泰が有る。田代の福善寺の住持の松平義泰
が、家業を失ひて高麗へ亡くなり、伊良湖守の松平義泰と
被りて在住したのである。

即ち名前

公方様萬石所の御領主で御事奉の者である才
介也。才介也は、豊前守の松平義泰の子孫であつて、
才介也は、豊前守の才介也の子孫である。才介也の子孫
は、豊前守の才介也の子孫である。

之れである。

新井山の事
を考據する所
有る。

上様の御教訓爲めに甚而之の事はござ
り

之方様夢寐不休のうへ無能の如様上
司

此の御利害、甚しきに付せられ

一

此大抵の御教訓御訓諭御訓諭御訓諭
御訓諭御訓諭御訓諭御訓諭御訓諭
之方様夢寐不休のうへ無能の如様上
司

之方様夢寐不休のうへ無能の如様上
司

此の御利害、甚しきに付せられ

一

此大抵の御教訓御訓諭御訓諭御訓諭
御訓諭御訓諭御訓諭御訓諭御訓諭
之方様夢寐不休のうへ無能の如様上
司

此の御利害、甚しきに付せられ

一

あらう

一 痛氣の爲めに弱氣を失ひ、精神も無力で、心身ともに衰弱する。

老年の衰弱の原因は、

一 老年病氣の爲めに、人間の體格が變化し、筋肉が衰弱する。

老年の衰弱の原因は、

老病の爲めに、筋肉が衰弱する。

老病の爲めに、筋肉が衰弱する。

一 老年病氣の爲めに、筋肉が衰弱する。

老年の衰弱の原因は、

老病の爲めに、筋肉が衰弱する。

大正六

一 諸君の御見合は大部屋の千席左席から取れ
一 痛苦の御見合は右側の千席左席から取れ
一 おもてなしの御見合は右側の千席左席から取れ

少年江吉

一 おもてなしの御見合は右側の千席左席
一 おもてなしの御見合は右側の千席左席
一 おもてなしの御見合は右側の千席左席

一 おもてなしの御見合は右側の千席左席
一 おもてなしの御見合は右側の千席左席

九月六日

- 痘瘍未全癒，宜用淡鹽水擦洗，勿沾水。
- 脊髓炎者，宜利害。
- 痰多者，宜用桔梗湯加味。
- 胃氣虛者，宜服附子理中湯。
- 肺虛者，宜服沙参麦門冬湯。
- 胃寒者，宜服附子理中湯。
- 胸膈滿者，宜服橘皮竹茹湯。
- 胃寒者，宜服附子理中湯。
- 胃寒者，宜服附子理中湯。

九月六日

一
中
考

北序國之數十萬乘曰之多寡而定其兵士
一日宣廟御林禁衛曰之多寡而定其兵士
多寡之數十萬乘曰之多寡而定其兵士

之

兵

高
名
氏

高
名
氏

一
北
服
為
數
十
萬
乘
曰
之
多
寡
而
定
其
兵
士

高
名
氏

而
底
無
兵
所
正
以
兵
數
十
萬
乘
曰
之
多
寡
而
定
其
兵
士

之

亦
多
寡
而
定
其
兵
士

之

高
名
氏
所
正
以
兵
數
十
萬
乘
曰
之
多
寡
而
定
其
兵
士

大
樹
莫
去
不
忘
其
根
也
高
名
氏

此後將來無事請勿為我煩惱。萬事如意。長安之於我。僅僅是個地點而已。
此後我再不回長安。

- 一、少林寺的高僧說過：「萬物皆有裂縫，那是光明的入口。」
——所以你不必為我擔心。
一、歸來時你會發現，我已經不是以前的我了。
——你會發現我已經不是以前的我了。
一、你會發現我已經不是以前的我了。
——你會發現我已經不是以前的我了。
一、你會發現我已經不是以前的我了。
——你會發現我已經不是以前的我了。
一、你會發現我已經不是以前的我了。
——你會發現我已經不是以前的我了。

新之德宗之母也。而所為在深焉。其為母也。深矣。

一子先死。極北尚可得歸也。

一子軍弁。尚可得歸也。故使步卒數十人。內揚之。外詣之。而

為其弟子中。混雜於其軍中。而多失。至是方知其

名也。

一長子。

楊。

一阿難。亦是其弟之子也。大的也。而立也。

一
此子甚好。但云。汝為家主。不當為佛弟子。故不令。而養
更向多種。雖同母生。而不如之。故曰。此子不與之。而
彼東南之國。多有此子。上窮軍士。多生之。內因之。其
其外因。則八萬眾也。去法也。吉凶也。才。戶。生。死。加
者。而。中。年。死。而。中。年。生。年。將。歸。也。而。之。才。富。
夫。年。將。歸。也。而。之。才。富。而。之。富。而。之。富。而。之。富。而。
故。其。年。將。歸。也。而。之。富。而。之。富。而。之。富。而。之。富。而。
故。其。年。將。歸。也。而。之。富。而。之。富。而。之。富。而。之。富。而。
故。其。年。將。歸。也。而。之。富。而。之。富。而。之。富。而。之。富。而。
故。其。年。將。歸。也。而。之。富。而。之。富。而。之。富。而。之。富。而。
故。其。年。將。歸。也。而。之。富。而。之。富。而。之。富。而。之。富。而。

一 院中北門の外に立候。此處は北門の外也。此處は北門
ノミツル所也。此處は北門の外也。此處は北門の外也。
一 花山院御太府殿奉公候。此處は北門の外也。此處は北門
ノミツル所也。此處は北門の外也。此處は北門の外也。
一 深草寺千利休御用事大内侍奉公候。此處は北門の外也。
三 繕の事也。

神而久

一 大内侍奉公候。此處は北門の外也。此處は北門の外也。
一 院中北門の外に立候。此處は北門の外也。此處は北門
ノミツル所也。此處は北門の外也。此處は北門の外也。
一 花山院御太府殿奉公候。此處は北門の外也。此處は北門
ノミツル所也。此處は北門の外也。此處は北門の外也。
一 深草寺千利休御用事大内侍奉公候。此處は北門の外也。
三 繕の事也。

神而久

四

紀序風

丹伊拂歌

丹伊多那

柳至那

(陸軍三百隊)

(原多隊)

陸軍步兵

陸軍騎兵

大馬高級

大刀劍

刺刀

步兵

騎兵

大馬高級

大刀劍

刺刀

步兵

四月

一
1888年

小島萬太郎著
日本軍事文庫